住民自らの行動に結びつく 水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト

住民に切迫性(危機感)を伝えるために 気象キャスター・気象予報士に 何ができるか?

2018年11月8日

気象キャスターネットワーク 副代表・事務局長 岩谷忠幸

NPO法人気象キャスターネットワーク



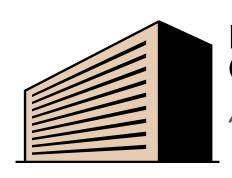


会員数 285人 (2017年12月31日現在)

全国の気象キャスターが放送局の垣根を越えて有志で集まり、 気象災害軽減や地球温暖化の緩和・適応策のために 知識普及啓発活動を行っている非営利活動法人です。

気象キャスター・気象予報士の役割





国·自治体 (国交省·気象庁)

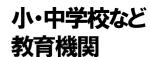
大学·研究所



気象キャスター



イベント講座など









気象キャスターは、難しい話をわかりやすく伝えるプロ(認知度や信頼度も高い)。

専門家と市民の「橋渡し役」(サイエンス・コミュニケーター)

学校などでの普及啓発



全国の気象キャスターが協力し、累計 4,500校以上の小中学校で出前授業 を実施。そのほか、毎年200回以上、 一般向け講演会や子供向け防災教室 開催。子供たち自身が災害から命を 守る「知恵」を身につけ、大人の避難 行動を促す「家庭の防災リーダー」と なってほしい。







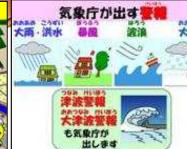
【表彰】地球温暖化防止活動環境大臣賞、 気象庁長官賞、東京都環境賞知事賞 地球環境大賞(文部科学大臣賞)など



あぶない所にいるボクに

メモをはって 防災ハザードマッフを

作ってみよう!





気象を体感で学ぶ普及啓発





一般向け防災講演会

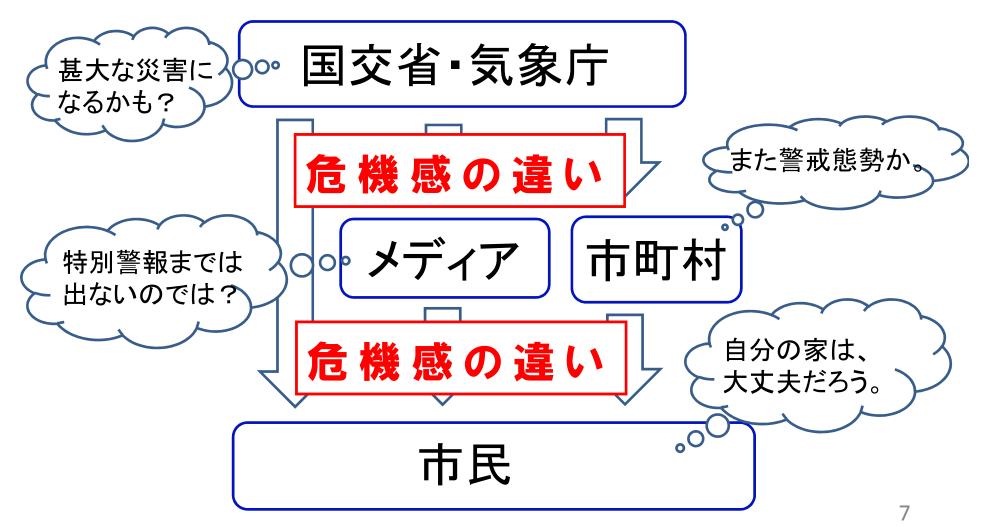




西日本豪雨の教訓(私見)

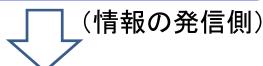
事前に予想されていた大雨

気象庁は異例の会見で「記録的な大雨のおそれ」と情報発表。



危機感(切迫性)の違いとは?(私見)

国交省•気象庁



メディア・市町村

____(情報の伝達側)

市民

(情報の受け手側)

- 予想雨量などデータを見て感じる危機感
- ・防災上、安全側に立った情報発信



- データだけでは感じにくい危機感
- 頻繁に発表される防災情報への慣れ



- 災害をイメージできず、感じない危機感。
- 自分は大丈夫と都合よく解釈し、 危機感を"自分ごと"にできない。

避難行動へのトリガーが必要

過去の災害を知る



(例)川島町での防災教室(関東地方整備局)



これまで、川島町ではどんな洪水があったのかな?

今から70年前(昭和22年)のカスリーン台風







詳細な情報=理解できない情報に!

気象状況 気象庁の情報 市町村の対応 心構えを一段高める 大雨の数日~ 約1日前 職員の連絡体制を確認 大雨の可能性が 今後の気象状況に注意 高くなる 【市民】 大雨の ■「避難指示」と「避難勧告」は、どちらがより危険なの? 半日~数時間前 雨が降り始める 雨が強さを増す 避難準備·高齢者等避難開始 大雨の数時間 氾濫 警戒 かつ水防団待機水位等を越えた場合) ~2時間程度前 警報 (警報級) 第3次防災体制 (選箕権) 告の発令を判断できる体制) 大雨となる 避難勧告 非常に危険 記録的短時間大雨情報 氾濫 出現し、かつ氾濫注意水位等を越えた場合) 命に危険が及ぶ災害が 土砂災害警戒情報 危険情報 いつ発生しても 第4次防災体制 おかしくない (災害対策本部設置) 大雨が一層 避難指示(緊急) 極めて危険 激しくなる 命に危険が及ぶ災害が すでに発生していても 氾濫 おかしくない 発生情報 広い範囲で • 特別警報の住民への周知 数十年に一度の 数十年に一度の 特別警報 これまでに 避難指示(緊急)等の対象範囲を 経験したことが 大雨 再度確認 ないような異常事態

住民の行動

気象情報や八ザードマップを確認

- ・心構えを一段高める
- に燃か安全が見ずり時難終敗を確認

•「氾濫危険情報」や「土砂災害警戒情報」って、 どのくらい危険なの?

> 土砂災害警戒区域等や 急激な水位上昇のおそれがある河川沿いにお住まいの方は、 避難準備が整い次第、避難を開始 高齢者等は速やかに避難

速やかに避難

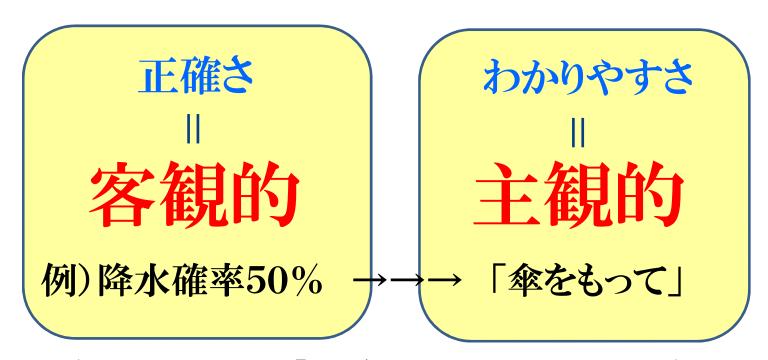
• 危険な区域の外の少しでも安全な場所に速やかに避難

避難を完了

- この状況になる前に避難を完了しておく
- これより前の段階で、危険度分布で「極めて危険」 (濃い紫) が出現するまでに避難を完了しておく

「避難勧告等に関するガイドライン」(内閣府)より作成

気象報道における「正確さ」と「わかりやすさ」



- (正確な意味) →「雨が降るのは五分五分の確率」
- (気象庁予報) →「くもり時々雨」
- (気象キャスター)→「雨が降りそうなので、傘をお持ちください」

避難行動を促すトリガーに?

1)天気予報番組での水害情報の見方の周知

天気予報番組で、災害前に水害情報の見方など、防災上、 役立つ情報を取り上げてもらいやすいよう、気象キャスターへ 情報提供を行う。放送内容は放送局の判断になるが、 防災上、役立つ情報の提供は国交省にも期待したい。



2)SNS等での防災情報発信及びリツイート

トリガーとなるべく、天気予報番組のほか、SNS等での情報発信、 川の防災情報などの国交省公式ツイートの積極的なリツイート。





3) 伝わりやすい水害・土砂災害情報の検討

専門用語が多く、一般市民に理解が難しい水害・土砂災害関連の用語を、わかりやすい表現にするため、定期的に国交省などと検討会(意見交換会)があってもよい。

4) 防災講演会及び防災教室にサイトの紹介

気象キャスターネットワークが実施している講演会などで、 国交省やYAHOOなどの防災情報サイトの紹介、携帯各社の 緊急速報メール、LINEの防災時の活用などを紹介。

5)「あなたの街の防災コメント」(47都道府県で)<案>

全国の気象キャスター・気象予報士の協力を得て、災害発生が 予想される時はもちろん、日頃から、県単位(将来的には市町 村単位)のローカル向け、防災コメントの発信ができないか?

6) 防災コラボチャンネル/コミュニティラジオなど臨時出演

ケーブルテレビやコミュニティFMなど、気象予報士による 天気予報がないところへ、大きな災害発生が予想されたとき に、スマホなどを活用して、臨時に出演する。